



「活きている ことわざ」

船橋市議会議員（無所属・4期）

神田 廣栄（かんだひろえい）市議会報告

【事務所】

船橋市前原西8-24-8

☎047-490-3333

Fax 465-7117

Eメール hiroei@muc.

biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

hiroei.jp

花鳥風月・隗（かい）より始めよ

【花鳥風月】◇風流の対象として眺められる、自然の美しい景観の代表的なもの。

《解説》花と花に遊ぶ鳥、心地よい風と美しい月という自然美の取り合わせから。

【隗より始めよ】◇事を始めるときは、言い出した人からまず始めなさいということ。

《解説》中国の戦国時代に燕の昭王が、賢人を招く方法を郭隗（かくかい）に問うと「この隗から重用することから始めれば、隗以上の賢人が集まるでしょう」と答えたという故事から。

民間気象会社「ウェザーニューズ」は、全国の会員10,490人を対象に、周辺のソメイヨシノが咲いているか緊急調査をしたところ、北海道から九州まで354人から「ソメイヨシノが咲いている」という結果だった、と明らかにしました。千葉県内では市川市真間川沿いなど、県北西部から東部にかけて桜開花の報告があったそうです。これは台風24号の猛烈な強風により海水が巻き上げられ、陸上に吹き付けた塩害が原因で、落葉したソメイヨシノの枝が、その後の暖かさで「春が来た」と勘違いして咲いたものです。



これも時期外れかな？

この塩害被害により、イチヨウやモミジなど紅葉を楽しめるものや、庭先のケヤキ、コブシ、柿の木、ツツジなど多くの落葉樹の葉が枯れたり落葉してしまいました。不思議にも竹林の南側面の竹の葉も同様な状態でした。本州のかなりの内陸部まで塩害による被害を受けました。来年の桜などの開花は大丈夫とのことでしたが、日本の『花鳥風月』が失われるのではないかと少し不安ではあります。

さて、今号は船橋市の財政について書きます。副市長から各部・課長あてに出した「平成31年度予算編成について（依命通知（いかめつちう））」からご報告いたします。

「依命通知」は聞き馴れませんが、国語辞典にも出ていません。広辞苑に「依命通達」というものがありました。意味は「指揮命令権を持つ上級行政機関が、自ら下級機関に命令する代わりに、その補助機関に代理権を授与して命令する方式。文書にて下級機関に送達される」と書いてありました。つまり、来年度の予算について、市長の命により副市長が各部・課全体に対して市の方針を通知したものであると理解できます。

【本市の財政状況について】

近年、本市の財政は厳しく、市債残高（借金）が増加し、財源調整基金（貯金）の残高が減少するという状況が続いています。



一般会計の市債残高は、平成25年度末の1,266億円から、平成29年度末には1,725億円と、5年間で459億円増加しています。一方で財源調整基金は、平成25年度末の226億円から、平成29年度末には120億円に、5年間で106億円減少しています。

貯金が減り借金が増えた要因は、小中学校などの耐震改修、保健福祉

センターの建設、北部清掃工場の建て替えなどの大規模施設整備を集中して行った際、多額の市債を発行したことが挙げられます。一方、少子高齢化の進行により、社会保障経費が急増しています。障害福祉事業、後期高齢者医療事業、待機児童対策などの事業に必要な財源を、財源調整基金からの繰り入れで補填(ぼたん=足りなくなった分を補うこと)せざるを得なくなりました。

また、今年の異常な猛暑の中、学校へのエアコン設置の必要性が叫ばれていましたが、本市では、学校の全教室へのエアコン設置などは他市に先駆けて実施しています。さらに、南部清掃工場の建て替えも行っています。今必要な事業を今実施しているわけで、貯金が減って借金が増えているのです。



平成25年度決算と平成29年度決算を比較すると、

	(平成25年度)	(平成29年度)	(差額)
歳入のうち市税分	946億3700万円	989億5000万円	43億1300万円 (4.6%増)
※ふるさと納税等による寄付控除額	1665万円	6億9619万円	(4,081.3%増)
歳出総額	1748億3500万円	2082億2200万円	333億8700万円 (19.1%増)

歳入で大きな額を占める市税が僅かばかりの4.6%の増加に対して、歳出が大きく19.1%も増加していることが分かります。また、※のように「ふるさと納税制度」により、本市に入るべき税金が他市に流れてしまうという、笑うに笑われない現実もあります。

そこで、依命通知によりますと、

1. 予算要求にあたっては、事業の優先順位、行政効果を十分見極めて効率的・重点的な予算要求をすること。類似団体との比較をするなどして事業の効果検証を行うこと。
2. 決算で多額の不用額が生じている事業や年度途中で予算不足が生じた事業は、原因を究明し十分に精査し適切な予算要求となるよう努めること。
3. 他部局と類似する事業を行い無駄が生じていないか、部局間で十分協議すること。
4. 出資団体等に対しては、各団体の経営努力を強く求め、当該団体に対する補助金・委託料等の削減に努めること。
5. 他団体が先行して実施している効率的な行政運営の情報収集・分析を行い、更なる業務の効率化に努めること。



など14項目の基本事項を示し、各部・課に無理・無駄を省き、より効果的な予算要望をするように指示しています。



このような状況は議員全員が知っているのですが、議会は深刻に考えてはいないのではないかと感じてしまいます。議会改革の名のもと様々な提案をしていますが、まず『隗より始めよ』です。タブレットなどは公費ではなく自費で買しましょう。無駄と思える宿泊を伴う視察はやめましょう。市民の皆様の厳しい目を議会にも向けて戴きたく思います。